

たつべいせき たつべこはんぐんあと
立部遺跡・立部古墳群跡
—在地豪族の墓地と火葬墓—

榎木 規秀（松原市教育委員会）

1. 立部遺跡・立部古墳群跡について

(1) 遺跡の概要

遺跡の性格/時代：古墳・集落・古代墳墓・社寺・生産遺跡 / 縄文時代～近世
地理的環境：中位段丘上に所在。中位段丘の中には谷地形も存在する。

(2) 既往の調査

- ・現（公財）大阪府文化財センターによる阪和自動車道・府道建設に伴う調査では、平安時代前期（8世紀末～9世紀代）の溝で囲まれた有力者の屋敷、平安時代末期～鎌倉時代初頭の大溝をもつ有力者の屋敷と平安時代末期～室町時代前期の集落を確認〔（財）大阪府文化財調査研究センター 1998〕。
- ・松原市教育委員会による市営住宅建築に伴う調査では、鑄造に関わる炉壁・鑄型・羽口が出土。また、鑄型等の原材料となる粘土を採掘した密集する粘土採掘土坑群を確認。

2. 発掘調査の概要

平成2年度（1990）に松原市立部3丁目、市立運動広場施設整備に伴って実施した本発掘調査（調査面積：1,450㎡）。調査地点は、河内大塚山古墳の南約500mに位置し、東側に谷地形をのぞむ中位段丘の端部に所在する。

調査では下記の遺構を検出した（図1～8・図13～18）。

古墳時代中期～後期（5世紀後半～6世紀代）：古墳群（方墳6基・円墳1基）

飛鳥時代（7世紀前半～中頃）：土壇墓1基

奈良時代（8世紀代）：火葬墓1基

平安時代前期（9世紀代）：火葬墓・土壇墓・木棺墓各1基

平安時代末期～鎌倉時代（12世紀代～13世紀代）：掘立柱建物・井戸

→古墳時代中期～平安時代前期は墓地。平安時代末期～鎌倉時代は集落。

3. 古墳について

- ・1辺約11mの方墳S22001が古墳群成立の契機。続いて5世紀末～6世紀初頭に、直径約11～12mの円墳S21001が築造される。その他は、6世紀代の1辺10m未満の方墳。
- ・埴輪は、方墳S22001から甲冑形埴輪・円筒埴輪・朝顔形円筒埴輪が出土。円墳S21001から剣形埴輪・円筒埴輪が出土。それ以外の古墳からは確認されていない。
- ・立部古墳群の被葬者→立部古墳群が所在する丹比地域では、5世紀中頃～後半に首長層の古墳である黒姫山古墳やさば山古墳のほか、小規模古墳が一斉に出現し、階層的な集団が他地域より移入したと考えられている〔三宮 2003〕。

小規模古墳の被葬者については、首長より独立した墓地を与えられ、在地支配の実務や軍事を担った集団（前掲）や、新たな開発を進めた〔橋本 2020〕という評価がある。

4. 火葬墓 ST2005 について

(1) 発掘調査結果

- ・一辺約 1m、深さ約 20cm に掘った方形の土坑から発見。
 - ・蔵骨器の底～肩部付近まで焼土混じりの木炭で埋める。→木炭柳もくたんかぐという構造に近い。
 - ・蓋で密封された状態で出土。(密封には粘土つうどを使用)→他に類例がない。
 - ・蔵骨器は須恵器で、専用品に準じる通常の容器。ただ、器形は類例がなく、畿外産。
 - ・蔵骨器内部には、多量の火葬骨が埋納つまされる。また、少量の木炭・焼土を確認。
 - ・年代は同じ土坑内より出土した土師器杯から、平安時代前期(9世紀前半)。
- 火葬墓の被葬者は、墳墓の構造・蔵骨器から、在地豪族層に比定される[小田 2011]。

(2) 自然科学分析について(図9～12)

被葬者と火葬地に関する知見を得るために蔵骨器内出土遺物、遺跡土壌の分析を実施。

- ・火葬骨の人類学的分析結果[松下真・松下孝 2021]

- (1) 骨のゆがみや亀裂等から筋肉や腱が残った状態で火葬された。
 - (2) 納骨された骨は頭蓋骨と手足の骨が多い。その他の胸部～腹部付近の骨が少なく分骨された可能性がある。ただ、納骨方法に規則性は認められない。
 - (3) 被葬者は熟年男性(40～59歳)。身長 158～160cm で上半身をよく使う生活様式。
- ・火葬骨の成分・木炭・焼土・遺跡土壌の分析結果[南 2021、若木・南 2021a・b]
- (1) 比較的栄養度の高い食事を摂取していたことが推定される。
 - (2) 西暦 800 年頃に死亡し、立部遺跡周辺で火葬されたことが推定される。

5. 古代墳墓と氏族墓地について

時代 飛鳥時代～平安時代前期(7世紀前半～9世紀後半まで)

7世紀後半、8世紀代の一時期に造墓されない時期がある。9世紀代は継続的。

葬法 土葬(7世紀)→火葬(8世紀～9世紀前半)→土葬(9世紀前半以降)の順に変遷。

配置 規則性、特定墳墓の優位性と墳墓同士の重複はない。小規模な封土ふうどは存在したか。古墳との関係 古代墳墓と古墳は、墓域は共有するが、原則重複しない。古墳の周溝から奈良時代の須恵器杯が出土。周溝が埋没せず、管理されていた。→先祖の墓域を維持。出土遺物 一般的な土器(土師器・須恵器)だが、土葬墓は火葬墓より出土遺物の種類・量が多い。他方で、出土遺物がない墳墓もあり、若干の階層差は存在したと考えられる。なお、帯金具おびかなぐなど被葬者の社会的立場を示す遺物は出土していない。

被葬者 墳墓の配置、構造と出土遺物から、比較的均質な階層の個人墓群で、造墓期間に比べて墓数は少ないため、氏族の長や長に近い立場の構成員が葬られた。古墳時代中期以降立部周辺を本拠とした在地豪族の墓地。氏族名は不明だが、候補を抽出(表1)。

おわりに

- ・氏族墓地の様相がわかる良好な事例。在地豪族の墓制を考える上で貴重。
- ・火葬墓 ST2005 出土蔵骨器から火葬骨が良好な状態かつ多量に出土。当時の納骨方法・埋葬方法を物語る資料。また、自然科学分析により被葬者や火葬地に関する知見が得られた。令和 4 年(2022)に松原市指定有形文化財となる。(松原市民ふるさとびあプラザで展示中)

引用・参考文献 ※図・表・写真は、引用元を示したものの以外、『立部遺跡・立部古墳群跡』より一部改変し、引用。

(財)大阪府文化財調査研究センター 1998 『観音寺遺跡』

小田裕樹 2008 「奈良県葛城市三ツ塚古墳群・古墓群の形成過程—古代氏族墓地の基礎的研究—」『九州と東アジアの考古学—九州大学考古学研究室50周年記念論文集—上巻』九州大学考古学研究室50周年記念論文集刊行会

小田裕樹 2011 「墓構造の比較からみた古代火葬墓の造営背景」『日本考古学』32 日本考古学会

小林義孝 1999a 「古代の個人墓と集団墓」『瓦衣千年』森郁夫先生還暦記念論文集刊行会

小林義孝 1999b 「古代墳墓研究の分析視角」『古代文化』第51巻12号 古代学協会

三宮昌弘 2003 「古墳時代地域社会支配構造の一例—南河内丹比地域の様相から—」『考古学に学ぶ(Ⅱ)』同志社大学考古学シリーズ刊行会

橋本達也 2020 『巨大古墳の時代を解く鍵 黒姫山古墳』新泉社

松下真実・松下孝幸 2021 「人骨の人類学的分析」『立部遺跡・立部古墳群跡』松原市教育委員会

松原市教育委員会 2021 『立部遺跡・立部古墳群跡』

南雅代 2021 「火葬骨・木炭の放射性炭素年代測定」『立部遺跡・立部古墳群跡』松原市教育委員会

若木重行・南雅代 2021a 「人骨のストロンチウム同位体分析」『立部遺跡・立部古墳群跡』松原市教育委員会

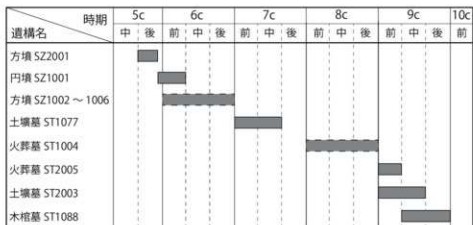
若木重行・南雅代 2021b 「土壌試料のストロンチウム同位体分析」『立部遺跡・立部古墳群跡』松原市教育委員会



『立部遺跡・立部古墳群跡』
発掘調査報告書 QR コード

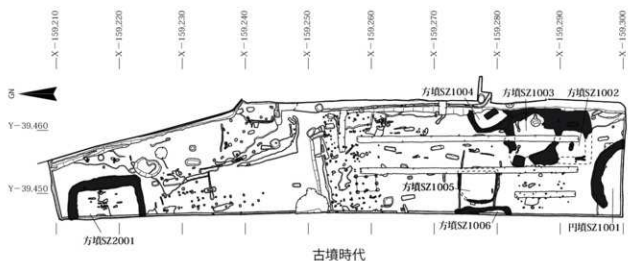


図1 調査地位置図



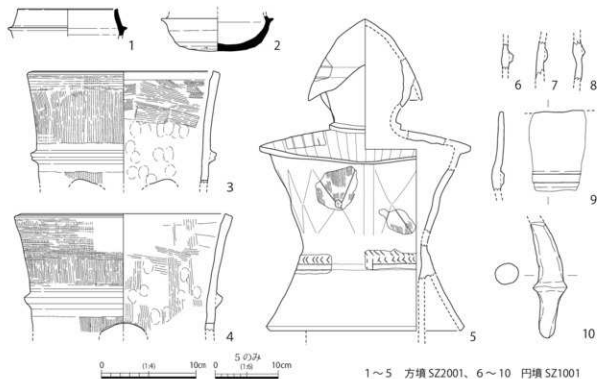
■ は詳細な
時期不明

図2 主要な古墳、古代墳墓の消長



飛鳥時代～平安時代前期
図3 遺構変遷図

0 1:600 20m



飛鳥時代～平安時代前期
図3 遺構変遷図

0 1:600 20m

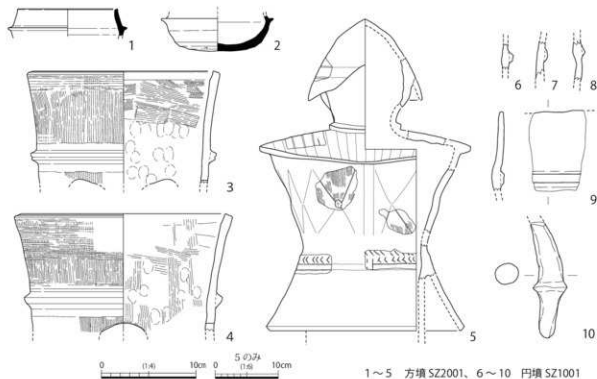


図4 古墳(方墳SZ2001・円墳SZ1001)出土遺物実測図

1~5 方墳SZ2001、6~10 円墳SZ1001

0 1:4 10cm 5のみ 1:6 10cm

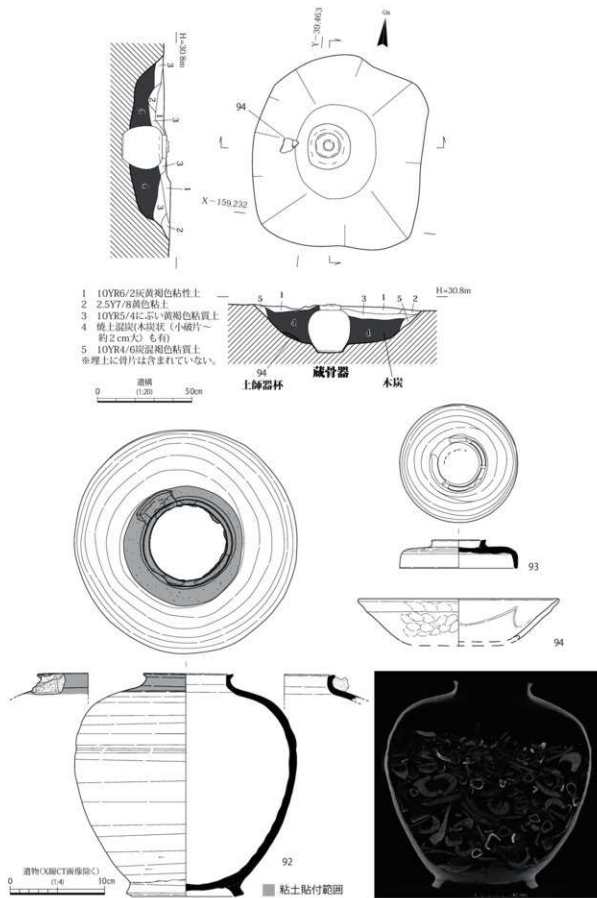


図5 火葬墓 ST2005 遺構平面図・断面図、出土遺物実測図、蔵骨器壺 X線 CT 画像

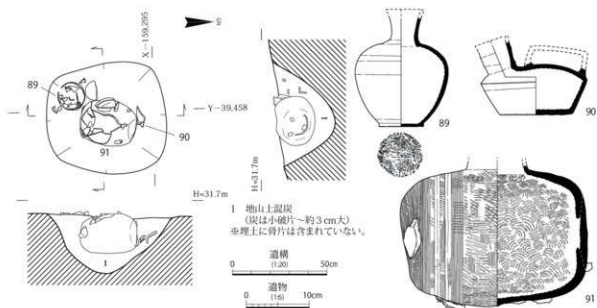
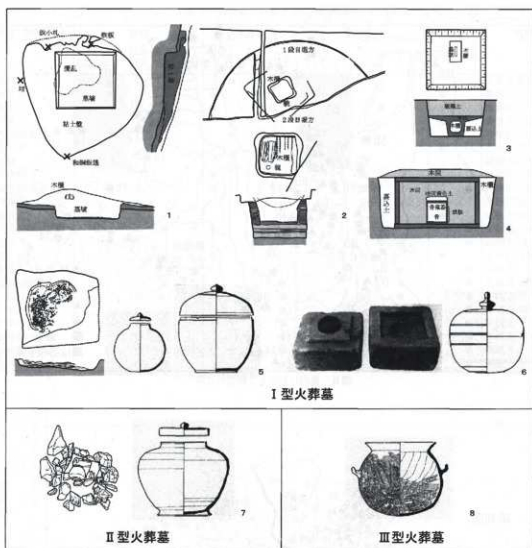


図6 火葬墓 ST1004 遺構平面図・断面図、出土遺物実測図



1. 小治田安萬侶墓 2. 柳之内火葬墓 3. 太安萬侶墓 4. 出願敷2号墓 5. 文祿麻呂墓
6. 拾生古墓 7. 雁多尾畑49支群1号墓 8. 雁多尾畑49支群2号墓

図7 古代火葬墓の3類型 【小田 2011より引用】

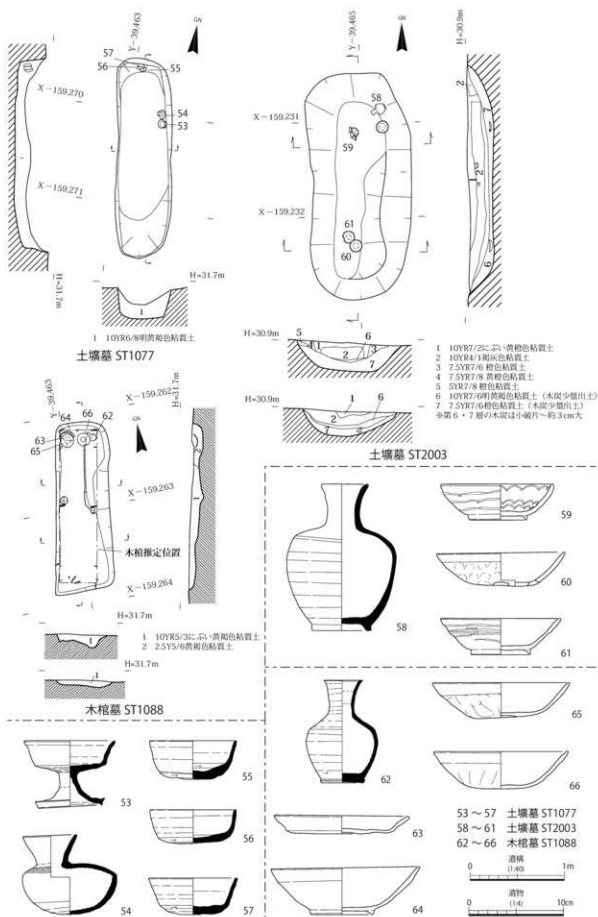
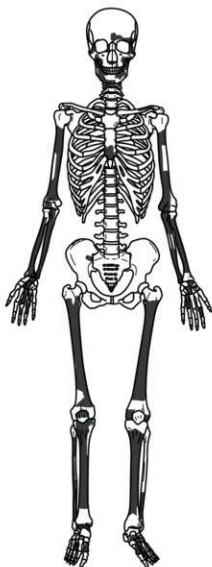


図8 古代墳墓(土壙墓 ST1077・2003、木棺墓 ST1088)遺構平面図・断面図、出土遺物実測図



■ 埋納部

図9 埋納された火葬骨の部位
[松下真実・松下孝幸 2021]

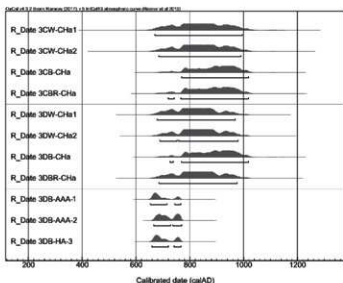


図10 黒色骨片と白色骨片、炭化木片の¹⁴C年代

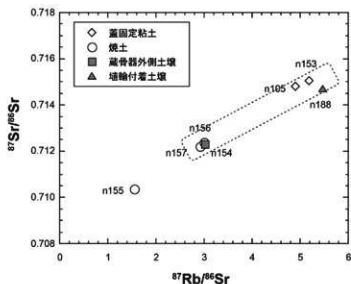


図11 遺跡土壌試料のRb-Sr放射壊変系分析結果

[P.8 図出典]

図9 松下真実・松下孝幸 2021

「人骨の人類学的分析」

図10 南雅代 2021

「火葬骨・木炭の放射性炭素年代測定」

図11 若木重行・南雅代 2021b

「土壌試料のストロンチウム同位体分析」

図12 若木重行・南雅代 2021a

「人骨のストロンチウム同位体分析」

各掲載範囲を一部改変し、引用。

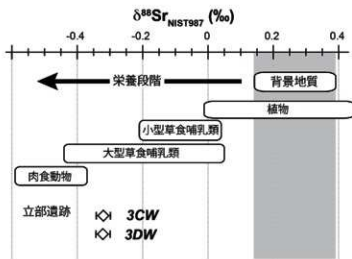


図12 安定ストロンチウム同位体を利用した食性解析

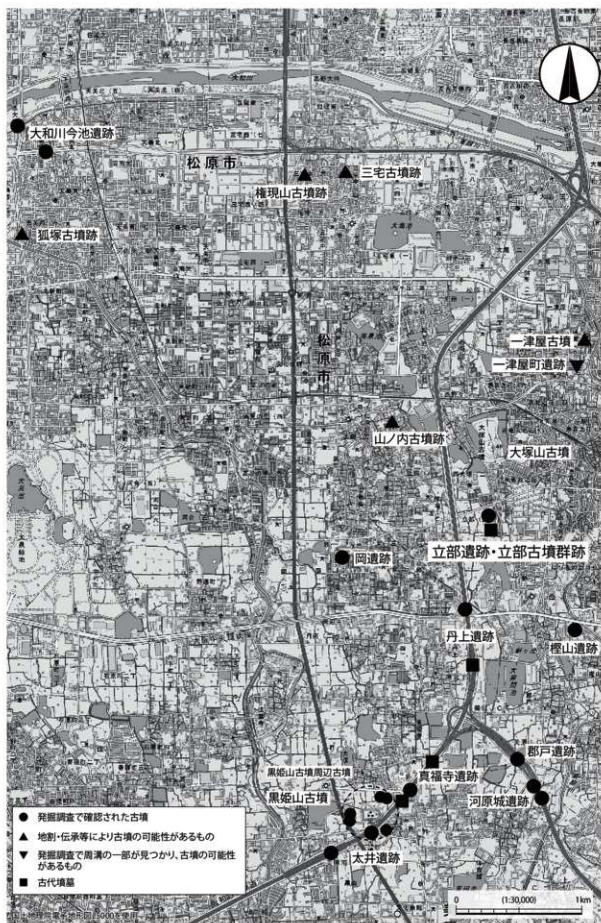


図13 丹比地域の古墳・古代墳墓分布図

表1 氏族墓地を営んだ候補となる氏族一覧

氏族名	本貫地（比定地）	主要資料	備考
布忍首	丹比郡田邑郷（松原市布忍付近）	『姓氏録』	
依網阿比古 依網造 依網連	丹比郡依網郷（松原市天美西付近） 摂津国住吉郡大羅郷（大阪市住吉区庭井付近）	『古事記』 『続日本紀』	
中臣酒屋連	丹比郡三宅郷（松原市三宅付近）	『姓氏録』	
上道	丹比郡三宅郷（松原市三宅付近）	『正倉院文書』	
河内画師	丹比郡土師郷 （堺市北区金岡付近か松原市立部付近）	『正倉院文書』	比定地は、 2カ所あり。
土師	丹比郡	『日本三大実録』	

（『松原市史』第一巻、『藤井寺市史』第一巻より作成）

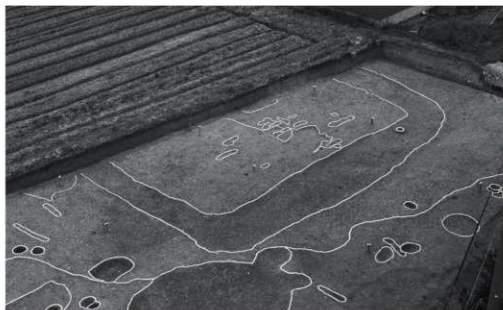


図14
方墳 SZ2001
（南東から）



図15
円墳 SZ1001、
方墳 SZ1002～
SZ1006
（東から）

図 16
火葬墓 ST2005
蔵骨器蓋固定
粘土
(北から)



図 17
火葬墓 ST2005
出土遺物一括



図 18
土壙墓 ST1077
(西から)



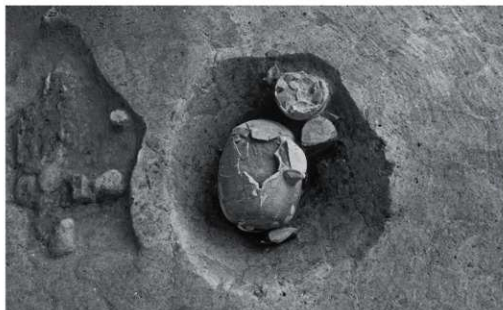


図 19
火葬墓 ST1004
(北から)



図 20
土葬墓 ST2003
(西から)



図 21
木棺墓 ST1088
(西から)